

取扱暗号資産概要説明書

概要説明書更新年月日		ビットコイン
基礎情報	日本語の名称	ビットコイン
	現地語の名称	Bitcoin
	呼称（日本語の名称と同じ場合は一表記）	-
	ティッカーコード（シンボル）	BTC、XBT
	発行開始（年、月、日）	2009年1月3日
	時価総額（ドル基準、例：\$ 1,000,000）	\$1,847,827,161,468
	時価総額（円基準、例：¥ 100,000,000）	¥276,804,508,787,906
	主な利用目的	送金、決済、投資
	利用制限の有無	なし
	海外流通の有無	あり
	国内流通の有無	あり
	店舗等の利用制限の有無	なし
	利用制限を行う者の属性	-
	利用制限の内容	-
	一般的な性格	分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産
	法的性格（資金決済法第2条第5項第1号、第2号の別例：第1号）	第1号
	2号の場合：相互に交換可能な1号暗号資産の名称	-
	発行暗号資産に対する資産（支払準備資産）の有無および名称	なし
	発行者に対する保有者の支払請求権（買取請求権）	-
支払請求（買取請求）による受渡資産	-	
発行者が保有者に付与するその他の権利	-	
発行者に対して保有者が負う義務	-	
価値の決定	保有者間の自由売買による	
交換（売買）の制限	-	
価値移転、保有情報を記録する電子情報処理組織の形態	パブリック型ブロックチェーン	
保有・移転記録台帳の公開、非公開の別	公開	
保有・移転記録の秘匿性	ハッシュ関数（SHA-256、RIPEMD-160）、楕円曲線公開鍵暗号、シュノア署名等による暗号化処理を施しデータを記録	
利用者の真正性の確認	秘密鍵と公開鍵を用いた暗号化技術により、利用者本人が発信した移転データと特定し、記帳する	
価値移転記録の信頼性確保の仕組み	Proof of work コンセンサス・アルゴリズム（分散台帳内の不正取引を排除するために、記録者全員が合意する必要があるが、その合意形成方式）の1つであり、一定の計算量を実現したことが確認できた記録者を管理者と認めることで分散台帳内の新規取引を記録者全員が承認する方法	
誕生時に技術的なベースとなったコインの有無とその名称（アルトコインのみ）	-	
取引単位・交換制限	取引単位の呼称	1 BTC=1,000 m BTC m：ミリ 1 m BTC=1,000 μ BTC μ：マイクロ 1 μ BTC=1 bits bits：ビット 1 bits=100 satoshi
	保有・移転記録の最低単位	1 satoshi (= 0.00000001 BTC)
	交換可能な通貨又は暗号資産	全て可
	交換制限	-
	制限内容	-
	交換市場の有無	あり
資産連動の有無等	価値が連動する資産等の有無	なし
	価値連動する資産等の名称	-
	価値連動する資産等の内容	-
	価値連動する資産との交換の可否	-
	価値連動する資産との交換比率	-
	価値連動する資産との交換条件	-
付加価値	その他の付加価値（サービスの有無）	なし
	付加価値（サービス）の内容	-
	過去3年間の付加価値（サービス）の提供状況	-
発行状況	発行者	-
	発行主体の名称	プログラムによる自動発行
	発行主体の所在地	-
	発行主体の属性等	-
	発行主体概要	不特定の保有・移転管理台帳記録者による発行プログラムの集団・共有管理 多数の記録者による多数決をもって移転記録が認証される仕組み ブロックチェーンによる保有・移転管理台帳による記録管理と重層化した暗号化技術による記録の保全能力 保有・移転管理台帳の公開 暗号化技術による保有者個人情報の秘匿性
	発行方法	分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産
	発行可能数	20,999,999.9769 BTC
	発行可能数の変更可否	可
	変更方法	発行プログラムの変更
	変更の制約条件	分散型保有・移転管理台帳の記録者の95%以上の同意及び記録者によるプログラム修正の実施
	発行済み数量	19,828,812 BTC ・1ブロックを更新するごとに3.125 BTCを新規発行している ・210,000ブロックの更新を終えるごとに1ブロック更新による新規発行数が半減する仕組みとなっている
	今後の発行予定または発行条件	・2025年2月25日20:20時点でのブロック数:885,238個 （データ取得元） https://www.blockchain.com/explorer およそ10分に1ブロックを更新しており、日本時間2024年4月20日に半減期を迎え1ブロック更新当たり新規発行数が6.25BTCから3.125BTCとなっている 保有・移転管理台帳の管理者に対し、以下の数量を発行
	過去3年間の発行状況	2022年1月1日～2022年12月31日 332,000 BTC 2023年1月1日～2023年12月31日 336,875 BTC 2024年1月1日～2024年12月31日 219,670 BTC （データ取得元） https://www.blockchain.com/explorer/charts/total-bitcoins
	過去3年間の発行理由	分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行
	過去3年間の償却状況	-
	過去3年間の償却理由	-
	発行者の行う発行業務に対する監査の有無	なし
監査を実施する者の氏名又は名称	-	
直近時点で行われた監査年月日	-	
直近時点における監査結果	-	
価値移転記録台帳に係る技術	ブロックチェーン技術の利用の有無	あり
	ブロックチェーンの形式	パブリック型
	ブロックチェーン技術を利用しない場合には、その名称	-
	利用するブロックチェーン技術以外の技術の内容	-
	価値移転認証の仕組み	・台帳形式 ・価値移転認証を求める暗号データを記録者が解読し、利用者および移転内容の真正性を確認して価値移転記録台帳の記録を確定する
	価値記録公開/非公開の別	公開
保有者個人データの秘匿性の有無	あり	
秘匿化の方法	公開鍵と秘密鍵による暗号化	

	価値移転ネットワークの信頼性に関する説明	オープンソース・ネットワークの脆弱性に対し、暗号により連鎖する台帳群（ブロックチェーン）を用い、難易度の高い作業証明の蓄積されたチェーンが選択されることがBitcoinのコンセンサスアルゴリズムによって規定されており、データ改竄の動機を排除し、信頼性を確保している
価値移転の記録者	記録者の数	不定だが主なPoolとそのシェアに関しては以下を参照 https://www.blockchain.com/charts/pools
	記録者の分布状況	2024年4月現在のHashrate上位3カ国は、米国約35%、カザフスタン約18%、ロシア約11% https://worldpopulationreview.com/country-rankings/bitcoin-mining-by-country
	記録者の主な属性	誰でも自由に記録者になることができる
	記録の修正方法	記録者が合意し、各記録者が保管する台帳の修正を自ら行う
	記録者の信用力に関する説明	記録者による多数の合意がなければ不正が成立せず、記録者が十分に多数であることによって、個々の記録者の信用力に頼らず、記録保持の仕組みそのものを信用の基礎としている
	価値移転の管理状況に対する監査の有無	なし
	監査を実施する者の氏名又は名称	-
	直近時点で行われた監査年月日	-
	その監査結果	-
	(統括者に関する情報)	-
	記録者の統括者の有無	なし
	統括者の名称	-
	統括者の所在地	-
統括者の属性	-	
統括者の概要	-	
暗号資産に内在するリスク	価値移転ネットワークの脆弱性に関する特記事項	多数の記録者が結託し、あるいは既存の記録者が有する処理能力合計よりも強力な能力を用いることによって、記録台帳を改竄することができる脆弱性があり、51%攻撃とも呼ばれる
	保有情報暗号化技術の脆弱性に関する特記事項	-
	発行者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	BTC価格の下落（対法定通貨）等に起因したマイナー撤退により、ハッシュパワーが低下し、セキュリティ低下を招く可能性がある
	価値移転記録者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	-
	移転の記録が遅延する可能性に関する特記事項	マイニングに参加するマイナーが少ないもしくは全くなくなった場合、移転の記録が遅延もしくはは進行しない恐れがある
	プログラムの不具合によるリスク等に関する特記事項	現時点ではプログラムが適正に機能し、所有データの改竄、同一のBitcoinの異なる者との取引、複数の所有者が同一のBitcoinを同時に保有する状況などの不適切な状態に陥ることを排除しているが、未検出のプログラムの脆弱性やプログラム更新などにより新たに生じた脆弱性を利用し、データが改竄され、価値移転の記録が異常な状態に陥る可能性がある
	過去に発生したプログラムの不具合の発生状況に関する特記事項	2018年9月に無限増殖バグ等が発見され、Bitcoinが無限に発行できる危険性があったが、既に解消されている https://coinpost.jp/?p=47597
	非互換性のアップデート(ハードフォーク)の状況	Bitcoinのハードフォークは以下の通り 2017年8月1日 ビットコインキャッシュ (BCH) 2017年10月24日 ビットコインゴールド (BTG) 2017年11月24日 ビットコインダイヤモンド (BCD) 2017年12月12日 スーパービットコイン (SBTC) 2017年12月18日 ライトニングビットコイン (LBTC) 2017年12月27日 ビットコインゴッド (GOD)
今後の非互換性アップデート予定	-	
正常な稼働に影響を与えたサイバー攻撃の履歴	-	
流通状況	価格データの出所	出所 : CoinMarketCapURL : https://coinmarketcap.com/ja/currencies/bitcoin/
	1取引単位当たり計算単価 (ドル基準、例 : \$1,000,000)	\$93,189
	1取引単位当たり計算単価 (円基準、例 : ¥100,000,000)	¥13,959,712
	ドル/円計算レート (2025年2月25日基準)	1ドル/149.8円
	四半期取引数量 (現物、単位は百万円)	4,182,107 百万円
備考	-	

取扱暗号資産概要説明書

概要説明書更新年月日		イーサリアム
基礎情報	日本語の名称	イーサリアム
	現地語の名称	Ethereum
	呼称（日本語の名称と同じ場合は一表記）	-
	ティッカーコード（シンボル）	ETH
	発行開始（年、月、日）	2015年7月30日
	時価総額（ドル基準、例：\$ 1,000,000）	\$289,497,518,527
	時価総額（円基準、例：¥ 100,000,000）	¥43,366,728,275,345
	主な利用目的	送金、決済、スマートコントラクト
	利用制限の有無	なし
	海外流通の有無	あり
	国内流通の有無	あり
	店舗等の利用制限の有無	なし
	利用制限を行う者の属性	-
	利用制限の内容	-
	一般的な性格	・分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産 ・分散型アプリケーションが動作する実行環境の役割を果たす特徴を持つ
	法的性格（資金決済法第2条第5項第1号、第2号の別例：第1号）	第1号
	2号の場合：相互に交換可能な1号暗号資産の名称	-
	発行暗号資産に対する資産（支払準備資産）の有無および名称	なし
	発行者に対する保有者の支払請求権（買取請求権）	-
	支払請求（買取請求）による受渡資産	-
発行者が保有者に付与するその他の権利	-	
発行者に対して保有者が負う義務	-	
価値の決定	保有者間の自由売買による	
交換（売買）の制限	-	
価値移転、保有情報を記録する電子情報処理組織の形態	パブリック型ブロックチェーン	
保有・移転記録台帳の公開、非公開の別	公開	
保有・移転記録の秘匿性	公開鍵暗号の暗号化処理を施しデータを記録	
利用者の真正性の確認	秘密鍵と公開鍵を用いた暗号化技術により、利用者本人が発信した移転データと特定し、記帳する	
価値移転記録の信頼性確保の仕組み	Proof of Stake コンセンサス・アルゴリズム（分散台帳内の不正取引を排除するために、記録者全員が合意する必要があるが、その合意形成方式）の一つであり、保有している基軸暗号資産の量が多いほどブロック生成（承認）の成功確率が上昇する承認方式	
誕生時に技術的なベースとなったコインの有無とその名称（アルトコインのみ）	-	
取引単位・交換制限	取引単位の呼称	finney=0.001ETH szabo=0.000001ETH wei=0.000000000000000001ETH
	保有・移転記録の最低単位	1wei (=0.000000000000000001 ETH)
	交換可能な通貨又は暗号資産	全て可
	交換制限	-
	制限内容	-
	交換市場の有無	あり
資産連動の有無等	価値が連動する資産等の有無	なし
	価値連動する資産等の名称	-
	価値連動する資産等の内容	-
	価値連動する資産との交換の可否	-
	価値連動する資産との交換比率	-
	価値連動する資産との交換条件	-
付加価値	その他の付加価値（サービス）の有無	あり
	付加価値（サービス）の内容	Ethereumネットワーク上でのスマートコントラクトの記録と実行
	過去3年間の付加価値（サービス）の提供状況	安定してサービスが続いている
発行状況	発行者	あり
	発行主体の名称	Ethereum Foundation
	発行主体の所在地	スイス連邦ツーク州
	発行主体の属性等	次世代の分散型アプリケーションの開発
	発行主体概要	不特定の保有・移転管理台帳記録者による発行プログラムの集団・共有管理 多数の記録者による多数決をもって移転記録が認証される仕組み ブロックチェーンによる保有・移転管理台帳による記録管理と重層化した暗号化技術による記録の保全能力 保有・移転管理台帳の公開 暗号化技術による保有者個人情報の秘匿性
	発行方法	初期発行と、分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償としてプログラムにより自動発行
	発行可能数	未定
	発行可能数の変更可否	不可
	変更方法	-
	変更の制約条件	-
	発行済み数量	120,573,727 ETH
	今後の発行予定または発行条件	2025年2月時点では、ステーキング報酬として1日当たりおおよそ2,500 ETHが新規に発行されている ・2020年1月時点では発行済量が105,867,881あり、2022年6月24日時点では121,242,512へ増えた ・2025年2月時点では、ステーキング報酬として1日当たりおおよそ2,500 ETHが新規に発行されているが、手数料の一部焼却による減少があるため、純増はおおよそ1日当たり1,000～2,000 ETHとなっている
	過去3年間の発行状況	2024年3月の「デンクン」アップデートによる取引手数料の大幅な削減に伴い、手数料の一部焼却による減少量が少なくなったことにより、ステーキング報酬が手数料の一部焼却による減少を上回る状況が継続しているため
	過去3年間の発行理由	2023/5/15時点と比較して4,575,441 ETH 焼却されている
	過去3年間の償却状況	2021年8月に実施された「ロンドン」アップグレードによる取引手数料の一部焼却機能の実装に加え、PoWからPoSに移行したことで、取引量増加に伴い手数料の一部焼却による減少量が増加し、ステーキング報酬の増加量を上回る状況が続いたため
	過去3年間の償却理由	なし
	発行者の行う発行業務に対する監査の有無	なし
監査を実施する者の氏名又は名称	-	
直近時点で行われた監査年月日	-	
直近時点における監査結果	-	
価値移転記録台帳に係る技術	ブロックチェーン技術の利用の有無	あり
	ブロックチェーンの形式	パブリック型
	ブロックチェーン技術を利用しない場合には、その名称	-
	利用するブロックチェーン技術以外の技術の内容	-
	価値移転認証の仕組み	台帳形式 価値移転認証を求める暗号データを記録者が解読し、利用者および移転内容の真正性を確認して価値移転記録台帳の記録を確定する
	価値記録公開/非公開の別	公開
	保有者個人データの秘匿性の有無	あり
秘匿化の方法	公開鍵と秘密鍵による暗号化	
価値移転ネットワークの信頼性に関する説明	オープンネットワークの脆弱性に対し、暗号により連鎖する台帳群（ブロックチェーン）および記録者による多数決をもって移転記録が認証される仕組みを用い、多数の記録者のネットワークへの参加を得ることによって、データ改竄の動機を排除し、信頼性を確保する	

価値移転の記録者	記録者の数	5,935 (2025年2月25日時点のノード数) https://etherscan.io/nodetracker
	記録者の分布状況	米国、ドイツ、カナダ、英国など
	記録者の主な属性	不特定 記録者は最低32ETHの保有が必要となる
	記録の修正方法	記録者が合意し、各記録者が保管する台帳の修正を自ら行う
	記録者の信用力に関する説明	記録者による多数の合意がなければ不正が成立せず、記録者が十分に多数であることによって、個々の記録者の信用力に頼らず、記録保持の仕組みそのものを信用の基礎としている
	価値移転の管理状況に対する監査の有無	なし
	監査を実施する者の氏名又は名称	-
	直近時点で行われた監査年月日	-
	その監査結果	-
	(統括者に関する情報)	-
	記録者の統括者の有無	なし
	統括者の名称	-
	統括者の所在地	-
	統括者の属性	-
統括者の概要	-	
暗号資産に内在するリスク	価値移転ネットワークの脆弱性に関する特記事項	多数の記録者による結託、あるいは既存の記録者が有する処理能力合計よりも強力な能力を用いることによって、記録台帳の改竄や発行プログラムの改変が可能となる
	保有情報暗号化技術の脆弱性に関する特記事項	第三者に秘密鍵を知られた場合には、利用者になりすまして送付指示を行うことができる
	発行者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	-
	価値移転記録者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	-
	移転の記録が遅延する可能性に関する特記事項	処理可能なトランザクションを上回る量の取引がブロックチェーン上で発生した場合に遅延する可能性がある
	プログラムの不具合によるリスク等に関する特記事項	ブロックチェーン上にデプロイされたコントラクトコードに脆弱性があった場合に不正に資産が盗み取られるリスクがある
	過去に発生したプログラムの不具合の発生状況に関する特記事項	Ethereum上のアプリケーション「The DAO」のプログラム（スマートコントラクト）のバグ（脆弱性）を攻撃されて、集まったファンド資金3分の1以上を盗み取られた事例がある
	非互換性のアップデート（ハードフォーク）の状況	2016年7月 The DAOの攻撃によって盗まれたDAOを取り戻すEthereum Classicハードフォーク（注1） 2017年7月に発生した盗難案件をきっかけに、2018年1月に再び分裂しEthereum Zeroが誕生 2022年9月一部のETHマイニング団体がEthereum Proof of Workモデルをサポートし続けるため、再び分裂しEthereumPoWとEthereumFairが誕生した
流通状況	今後の非互換性アップデート予定	-
	正常な稼働に影響を与えたサイバー攻撃の履歴	-
	価格データの出所	出所：EtherscanURL: https://etherscan.io/stat/supply
	1取引単位当たり計算単価（ドル基準、例：\$1,000,000）	\$2,401
備考	1取引単位当たり計算単価（円基準、例：¥100,000,000）	¥359,670
	ドル/円計算レート（2025年2月25日基準）	1ドル/149.8円
備考	四半期取引数量（現物、単位は百万円）	708,785 百万円
	注1. Ethereum Classicハードフォークについて 旧来のイーサリアムをハードフォークすることにより、2016年6月の自律分散型投資ファンド「The DAO」への攻撃によって盗難されたDAOを救出した。このHFを支持しなかったマイナーによって存続することとなった旧仕様のイーサリアムはEthereum Classicに改称され、HF側がイーサリアムの名称を引き継いだ。スマートコントラクトの実行プラットフォームとして開発された現在のETCの性格を引き継いでいる。	

取扱暗号資産概要説明書

概要説明書更新年月日		2025年2月25日
基礎情報	日本語の名称	エクスタールビー
	現地語の名称	XRP
	呼称（日本語の名称と同じ場合は一表記）	-
	ティッカーコード（シンボル）	XRP
	発行開始（年、月、日）	2012年9月（Ripple Consensus Ledgerの開始日）
	時価総額（ドル基準、例：\$ 1,000,000）	\$128,510,929,391
	時価総額（円基準、例：¥ 100,000,000）	¥19,250,937,222,778
	主な利用目的	送付（送金）、決済、投資
	利用制限の有無	なし
	海外流通の有無	あり
	国内流通の有無	あり
	店舗等の利用制限の有無	なし
	利用制限を行う者の属性	-
	利用制限の内容	-
	一般的な性格	<ul style="list-style-type: none"> ・XRPは金融機関の送金において法定通貨間のブリッジ通貨としてオンデマンドの流動性を提供する役割を有しており、これによって金融機関は従来よりも格段に流動性コストを下げつつも送金先のリーチをグローバルに広げることができる ・XRPはRipple Consensus Ledger上での取引における取引料としての性格も有している ・ネットワークへの攻撃が起こった時には手数料が自動的に釣り上げられるため、攻撃が未然に防げる仕組みとなっている ・XRPは3~5秒ごとにファイナリティをもって決済を行うことができ、1秒につき1,500の取引を決済できるスケーラビリティを有する構造となっている
	法的性格（資金決済法第2条第5項第1号、第2号の別例：第1号）	第1号
	2号の場合：相互に交換可能な1号暗号資産の名称	-
	発行暗号資産に対する資産（支払準備資産）の有無および名称	なし
	発行者に対する保有者の支払請求権（買取請求権）	-
	支払請求（買取請求）による受渡資産	-
発行者が保有者に付与するその他の権利	-	
発行者に対して保有者が負う義務	-	
価値の決定	保有者間の自由売買による	
交換（売買）の制限	-	
価値移転、保有情報を記録する電子情報処理組織の形態	パブリック型ブロックチェーン	
保有・移転記録台帳の公開、非公開の別	公開	
保有・移転記録の秘匿性	<ul style="list-style-type: none"> ・取引はED25519とSECP256K1によって暗号署名が行われ、ハッシュにはSHA512 halfが使われる ・Multi-sign機能によって高度のセキュリティを可能としている 	
利用者の真正性の確認	秘密鍵と公開鍵を用いた暗号化技術により、利用者本人が発信した移転データと特定し、記帳する	
価値移転記録の信頼性確保の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・Ripple Consensus Ledger（RCL）はビザンチン將軍問題を解決する独自のコンセンサスアルゴリズムを採用し、Proof-of-Workよりもより速かつ効率的に取引を承認することができる ・信頼される認証済み法人バリデーター（検証者）が取引についての投票を行い、80%以上の合意が得られた取引については承認を行う ・RCLでは決済が3~5秒ごとに実行され、1秒につき1,500の取引まで対応できるスケーラビリティを有する 	
誕生時に技術的なベースとなったコインの有無とその名称（アルトコインのみ）	-	
取引単位・交換制限	取引単位の呼称	1 XRP = 1,000,000 drop
	保有・移転記録の最低単位	1 drop (= 0.000001 XRP)
	交換可能な通貨又は暗号資産	全て可
	交換制限	-
	制限内容	-
資産連動の有無等	交換市場の有無	あり
	価値が連動する資産等の有無	なし
	価値連動する資産等の名称	-
	価値連動する資産等の内容	-
	価値連動する資産との交換の可否	-
	価値連動する資産との交換比率	-
付加価値	価値連動する資産との交換条件	-
	その他の付加価値（サービス）の有無	あり
	付加価値（サービス）の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・金融機関の国際送金において流動性確保するためのブリッジ通貨として使われる ・Ripple Labs Inc. と R3 LLC が共同で行い、12の金融機関が参加した実証試験ではXRPを使用することで送金コストが60%低減できることが実証された ・上記の通り、2016年に金融機関による実証試験が行われた ・マネーグラム社がXRPを利用し米国とメキシコ間でODLを利用した国際送金を初めて行っている ・FlashFXはフィリピンへの支払いで正式にODLを導入した（AUD/PHP） ・2023年4月、Ripple Labs Inc. は金融機関向けに暗号資産の売買を簡素化することを目的とした新サービス「Liquidity Hub」を提供
発行状況	過去3年間の付加価値（サービス）の提供状況	国際送金以外でも、基盤のXRPLのユースケースとして、24年3月には、XRPLのメインネットに「AMM（自動マーケットメイカー）」がローンチされたことを発表
	発行者	-
	発行主体の名称	プログラムによる自動発行
	発行主体の所在地	-
	発行主体の属性等	-
	発行主体概要	不特定の保有・移転管理台帳記録者による発行プログラムの集団・共有管理
	発行暗号資産の信用力に関する説明	<ul style="list-style-type: none"> ・XRPはオープンなネットワーク上で固有のコンセンサスアルゴリズムによって取引が承認され、暗号化技術による堅牢なセキュリティ構造を有する ・取引が承認されるためには80%以上の認証済み法人バリデーターが合意をする必要があり、承認された取引はグローバルに共有されたパブリックな台帳に記録され、改ざん不可能となる ・XRPは国際送金の法人向けユースケースをサポートする機能を有したデジタルアセットであり、銀行によって直接保管され使用される実証試験が行われた唯一の独立型暗号資産である ・XRPはネットワーク開始以降2900万回台帳が更新されており、2016年には一度もダウンタイムは発生しておらず、強固なネットワークにより支えられている
	発行方法	2012年のネットワーク発足時に全て発行済み
	発行可能数	100,000,000,000 XRP
	発行可能数の変更可否	不可（全量発行済みのため追加発行無し）
	変更方法	Ripple Consensus LedgerのP2Pサーバー向けソフトウェアであるrippledのプログラム変更（現時点では発行するプログラム自体が存在しないので、新規に作成する必要がある）
	変更の制約条件	<ul style="list-style-type: none"> ・80%以上のバリデーターが合意しなければならない ・合意後に、プログラムの修正を実施する必要がある
	発行済み数量	100,000,000,000 XRP
	今後の発行予定または発行条件	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年に全て発行されており、今後の発行予定は無い ・発行済のXRPの約43%（2024年12月時点）をRipple Labs Inc. が保有し、約57%はすでに市場に流通している
	過去3年間の発行状況	-（2012年に全て発行済）
過去3年間の発行理由	-	
過去3年間の償却状況	2022年7月から2024年12月までに3,787,770が焼却された	
過去3年間の償却理由	ネットワークを攻撃者から守るためのメカニズムとして手数料を課し、その手数料分のXRPを消滅させる	
発行者の行う発行業務に対する監査の有無	なし	
監査を実施する者の氏名又は名称	-	
直近時点で行われた監査年月日	-	

	直近時点における監査結果	-
価値移転記録台帳に係る技術	ブロックチェーン技術の利用の有無	あり
	ブロックチェーンの形式	パブリック型台帳（「ブロック」の代わりにその時点での全ての情報を含む「台帳」（スナップショット）が公開される）
	ブロックチェーン技術を利用しない場合には、その名称	-
	利用するブロックチェーン技術以外の技術の内容	-
	価値移転認証の仕組み	・独自のコンセンサスアルゴリズムに基づく ・3~5秒ごとにバリデーターが台帳における新たな取引について投票を行い、80%以上の合意を得た取引が承認されたとみなされ、パブリックな台帳に記録される
	価値記録公開/非公開の別	公開
	保有者個人データの秘匿性の有無	あり
	秘匿化の方法	公開鍵と秘密鍵による暗号化
価値移転の記録者	価値移転ネットワークの信頼性に関する説明	・健全なネットワークを保全する動機を有する認証済法人バリデーターによって取引が承認される仕組みを有している ・ネットワークの攻撃に対して自動的に取引手数料が釣り上がる仕組みを有しており、攻撃を未然に防ぐことができる
	記録者の数	200のバリデーター（検証者）ノード（2025年2月時点） 注：他のパブリックブロックチェーンにも言えるように、ノードは情報の共有を拒否することも可能であるため、上記の数字はRipple Labs Inc.が把握している部分の数字のみを示している https://livenet.xrpl.org/network/validators
	記録者の分布状況	世界中に分散
	記録者の主な属性	誰でも自由に記録者になることができるが、信頼されているバリデーターの投票だけが投票プロセスにおいて考慮される
	記録の修正方法	・取引が一旦記録されると、取引は変更することができない ・承認された送金はキャンセルすることができないので、その送金を無効とするためには反対の取引を別途行う必要がある
	記録者の信用力に関する説明	・パブリックな台帳ネットワークを保持する動機がある、確認・証明済みの法人がバリデーター（検証者）になっている ・そのうち、トップのバリデーター運用のパフォーマンスを示した複数のバリデーターのみがUnique Node List（UNL）という推奨リストに追加され、ネットワークのノードによって参照されるため個々の記録者の信用は必要としない仕組みになっている
	価値移転の管理状況に対する監査の有無	なし
	監査を実施する者の氏名又は名称	-
	直近時点で行われた監査年月日	-
	その監査結果	-
	（統括者に関する情報）	-
	記録者の統括者の有無	なし
	統括者の名称	-
統括者の所在地	-	
統括者の属性	-	
統括者の概要	-	
暗号資産に内在するリスク	価値移転ネットワークの脆弱性に関する特記事項	・信頼するバリデーターが意に反して結託した場合、台帳とデータは改ざんされる可能性がある ・また、暗号資産の移転を支えるコミュニティの崩壊等により、暗号資産の移転が不可能となる可能性及びその他の理由等に起因し、最悪の場合は、暗号資産の価値がゼロとなる可能性がある
	保有情報暗号化技術の脆弱性に関する特記事項	・第三者に秘密鍵を知られた場合には、利用者になりすまして送付指示を行うことができる ・Ripple Consensus Ledgerは「Multisign」という機能を有しており、取引を承認する際に複数の秘密鍵を使用することによって、1つの秘密鍵が盗まれても損失を被らないような堅牢なセキュリティ構造を提供している
	発行者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	-
	価値移転記録者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	-
	移転の記録が遅延する可能性に関する特記事項	信頼されるバリデーターの大多数のネットワーク接続が失われた場合、接続が復活するまで価値移転の記録が遅延する可能性がある また、信頼されるバリデーターが互換性のないソフトウェアのバージョンを使用した場合、大多数のバリデーターが互換性のあるソフトウェアに移行するまで、または、非互換のソフトウェアを使うバリデーターを投票プロセスから除外するという設定をするまでは価値移転の記録が遅延する可能性がある
	プログラムの不具合によるリスク等に関する特記事項	・どのようなソフトウェアにも言えることだが、ソフトウェアの不具合が問題を引き起こす可能性は否定できないが、Ripple Labs Inc.では新しいバージョンがアップデートされる前に入念なQAを行っており不具合の可能性を最小化している ・Ripple Consensus Ledgerは2025年2月時点において、一度もフォークなどの大きな問題は経験することなく台帳を更新している
	過去に発生したプログラムの不具合の発生状況に関する特記事項	-
	非互換性のアップデート(ハードフォーク)の状況	-
	今後の非互換性アップデート予定	-
	正常な稼働に影響を与えたサイバー攻撃の履歴	-
流通状況	価格データの出所	出所：CoinMarketCapURL： https://coinmarketcap.com/coins/
	1取引単位当たり計算単価（ドル基準、例：\$1,000.000）	\$2.22
	1取引単位当たり計算単価（円基準、例：¥100,000.000）	¥332.56
	ドル/円計算レート（2025年2月25日基準）	1ドル/149.8円
	四半期取引数量（現物、単位は百万円）	909,078 百万円
備考	注1. 中央集権的な側面について XRPは、アメリカに本拠を置くリップル社が中心となって開発・管理を行っている暗号資産であり、リップル社がXRPの将来性を左右する重要な意思決定を行うことができるため、ビットコイン（BTC）やイーサリアム（ETH）などの他の主要な暗号資産と比較して、中央集権的な側面がある。そのため、リップル社の動向がXRPの価格に大きな影響を与える可能性がある。	
	注2. リップル社によるXRPの売却について リップル社は、保有するXRPを定期的、または随時に市場で売却しており、売却状況によって価格が大きく変動する恐れがある。リップル社は急激な市場価格の変動を抑制するためにエスクローシステムを導入するとともに、定期的に保有状況を公開している。 エスクローシステムとは： https://ripple.com/insights/explanation-ripples-xrp-escrow/ リップル社 XRP保有状況： https://ripple.com/insights/q4-2024-xrp-markets-report/	